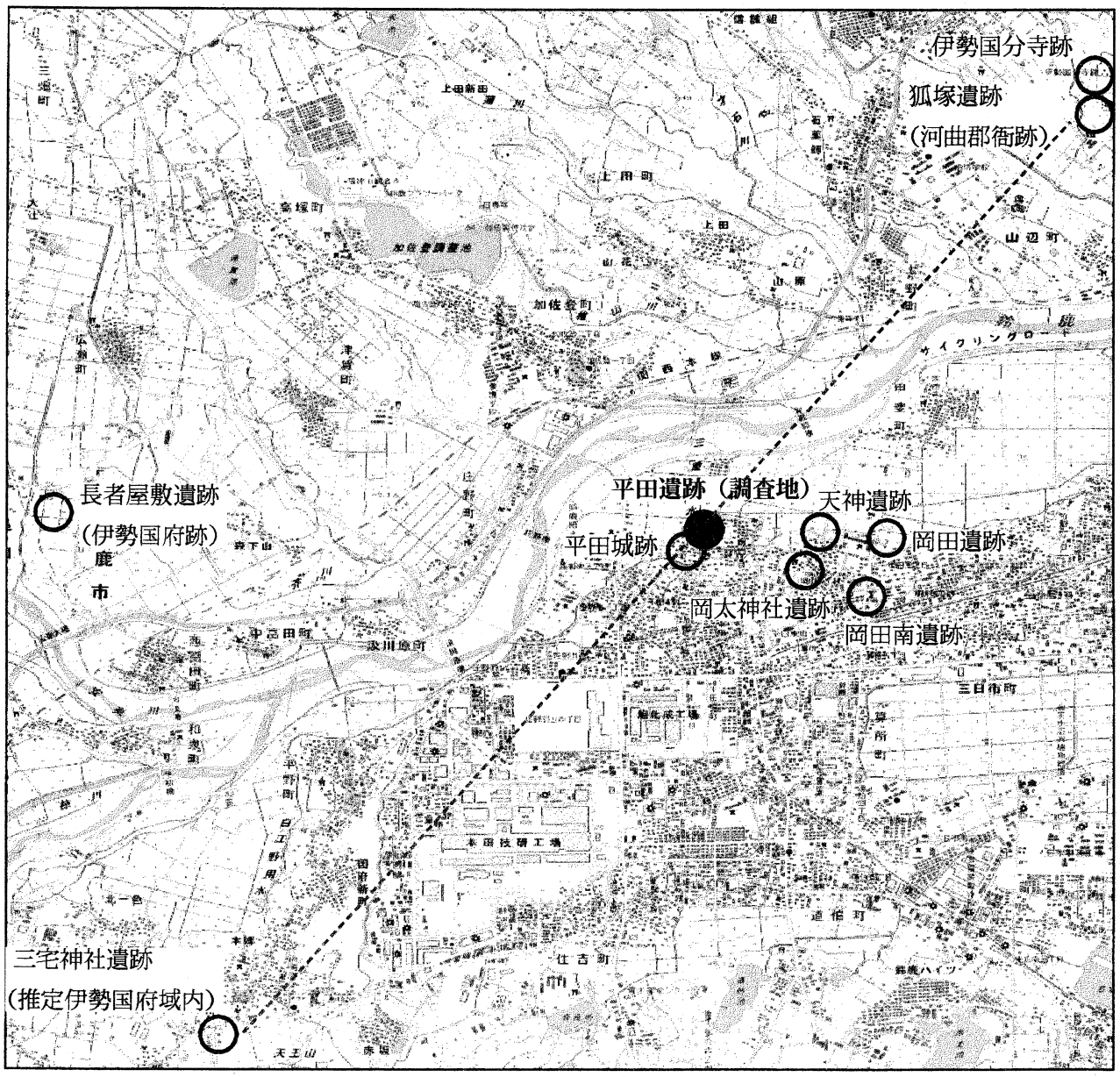
現地説明会資料　　平成 22 年 5 月 22 日（土）

平田遺跡　第 19 次調査

所在地	鈴鹿市平田本町一丁目
調査目的	平田送水場改築に伴う埋蔵文化財の記録保存
調査期間	平成 22 年 2 月 2 日～継続中（平成 22 年 7 月終了予定）
調査面積	約 3,600㎡
調査主体	鈴鹿市
調査機関	鈴鹿市考古博物館（鈴鹿市国分町 224 番地）
調査協力	株式会社　二友組



調査地と周辺の主な遺跡

1　はじめに

平田遺跡は鈴鹿川右岸の河岸段丘上に所在し，その標高は約 22 mです。この丘陵は北側の鈴鹿川へ向かって舌状に張り出しており，調査地はその先端部に位置しています。鈴鹿川によって形成された谷底平野との比高は 4 ～ 5 m程度を測ります。

平田遺跡周辺には，南西に隣接して平田城跡（中世城館），東方に天神遺跡（古墳時代），岡田南遺跡（弥生時代～中世），岡田遺跡 (中世)，岡太神社遺跡（中世）などが存在します。

平田遺跡では宅地造成や個人住宅建設に先立ち，現在までに 18 次に及ぶ調査が行われており，重要な成果が得られています。

【過去の調査結果概観】

①弥生時代後期～古墳時代初頭：方形周溝墓・竪穴住居等。

弥生時代の方形周溝墓 SX62 から縄文時代晩期の石刀が出土。

②古代（飛鳥～平安時代）：竪穴住居・掘立柱建物・道路跡・土器焼成坑等。

9 m幅の道路跡が直線的に延びることが確定。

県内屈指の規模を誇る四面廂付掘立柱建物 SB01 の存在。伊勢国内でも稀な事例で，有力豪族等の居宅を想定。その他大規模な掘立柱建物や硯・緑釉陶器等高級品が出土。

③中世（鎌倉時代中心）：掘立柱建物・溝等。

平行する 2 条の溝によって囲まれる屋敷地の存在。区画の中心に近い位置に掘立柱建物 SB29 を検出。

2　調査成果

①中世

東西溝 SD19007（外溝）と SD19008（内溝）を北辺，南北溝 SD19005（外溝）と SD19006（内溝）を東辺とする二重の溝によって周囲を区画された鎌倉時代の屋敷地を確認しました。屋敷地の規模は，東西約 41 m - 南北約 75 m（外溝の内法間距離測定）の長方形状を呈することが判明しました。送水場建物の直下に区画の北東コーナーが存在することが想定されます。広範な屋敷地内の内部施設の詳細は明らかではありませんが，井戸 SE19025 と大型の柱を持つ掘立柱建物 SB19086 が検出されました。

また，外溝 SD19005 が部分的に浅く掘られ，対応する内溝 SD19006 には橋を掛けたことが想定される痕跡 SX19100 が確認されました。これらは出入口と見られ，その設置箇所は区画の北から 1/3 程度の位置にあります。出入口は過去の調査では見つかっていません。付近には土坑状の不明遺構 SX19003 があり，その直上には総柱の掘立柱建物 SB19104 が存在します。平田遺跡では他に検出されておらず，建物に

付随する土坑であると考えられます。

②古代

溝SD19009を東側の側溝，溝SD19021・19022を西側の側溝とする北東-南東方向の道路跡を確認しました。道路の幅は9m程度（側溝の内法間距離測定）で，長さは約15mを測ります。過去の調査結果を合わせた総長は約130mに達します。奈良・平安時代を中心とする古代に機能していたと考えられています。道路跡の走行には重要な意味があり，当時の主要施設である伊勢国分寺・河曲郡衙（国分町）と推定後期伊勢国府（国府町）を結んでいます。その直進性を加味すると，公的に計画された官道である可能性が高いと考えられます。

道路の敷設に伴って前段階の集落は姿を消しますが，道路跡と同時期の遺構は殆ど見つかっていません。

③古墳時代

（1）竪穴住居

部分的に検出されたものを含めると12棟の竪穴住居が確認され，ほぼ全てが古墳時代初頭頃に帰属するものと思われます。確認された住居跡は一辺5～6m程度の方形で，柱穴及び周壁溝を伴い，炉及び土坑を備えたものも存在します。比較的良好に遺存していたSH19001やSH19014の床面には，面的に貼床が施されていました。シルト質の土を貼付け，床面の凹凸を解消していたと想定されます。また，位置を少しずらして建て替えたと思われる痕跡も確認されています。

南側一帯の過去の調査では，古代の住居跡が多く検出され，この時期の住居跡は散見される程度でした。古墳時代の初頭頃においては，より北側の舌状台地の先端部を中心に集落が形成されていたと言えます。

（2）方形周溝墓

当時の埋葬施設である方形周溝墓SX19002，SX19013が2基隣接して検出されました。幅0.5～1m程度を測る周溝の一部がL字状に巡ります。共に古墳時代初頭頃のものであると考えられますが，土器を供えた痕跡等，埋葬に直接的に関わるものは見られませんでした。

（3）大溝

調査区西部において，幅5～8mの大規模に掘られた溝SD19004が確認されました。溝は円を描くように湾曲しています。検出された総長は約30m前後を測りますが，北部では茫漠としています。規模の割に出土した遺物量は少なく，良好な資料に恵まれているとは言えません。この溝に対しては，流路や古墳の周溝等様々に検討をしていますが，確証は得られていません。後の古代道路面に位置しているため，その頃までに埋没していたことは間違いありません。

④その他

前述の遺構の他にも，多数の柱穴や土坑，溝等が確認されています。特に柱穴のまとまりから想定される掘立柱建物や柵列が幾つか並びますが，現状ではその性格や帰属時期を決定するに至っていません。

3　出土遺物

遺物量　コンテナバット（34.5 × 53 × 15㎝）に 36 箱

①土　器：縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器，黒色土器

②石　器：石鏃

③陶　器：灰釉陶器，緑釉陶器，山茶椀，山皿

③その他：土錘，青磁，円面硯，鉄釘，鉄滓，瓦　など

4　文献

①川俣氏

「続日本後紀」に 846 年記載。「鈴鹿郡枚田郷戸主川俣県造・・・」

河曲郡の大鹿氏と並ぶ国造級の有力豪族。

道路跡や円面硯・黒色土器等との関連。

②平田氏

「平田兵庫頭系図」に記載。1434 年平田喜国が海善寺城を築いた。

1467 年平田直隣が海善寺城から枚田郷平田に移した（平田城）。

織田信長の伊勢平定に伴い，平田城は陥落し，平田氏も滅亡。

※掲載内容は全て 5 月 7 日現在の情報となっています。調査は現在も継続中であり，引き続き遺構及び遺物の整理・検討作業を行いますので，最終的な内容に変更が生じる点があります。

【用語解説】

①墨書土器：文字・絵画・文様・記号等を記した土器。坏・皿・坏蓋など須恵器や土師器の食器に多いが，あらゆる形態の土器に墨書はなされ得る。坏・皿類では，概ね伏せて置いたとき上になる部位に記される。一文字の墨書が圧倒的に多いが，文脈からの判読は困難で，判読さえ困難な場合も多々ある。墨書内容は地名・人名等の固有名詞，官職名，方角，数字等，様々である。

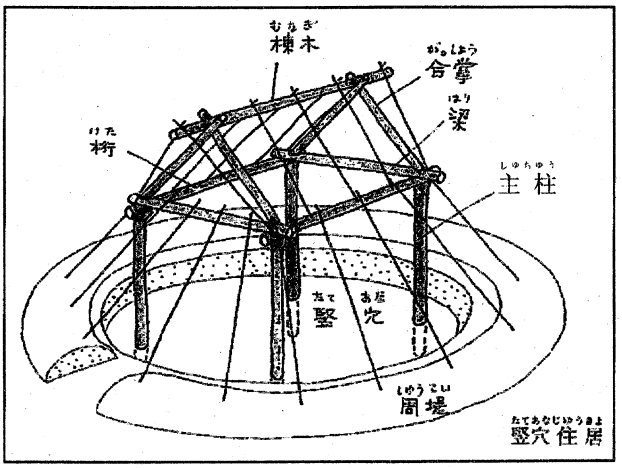
②山茶椀：11 世紀中頃から 14 世紀前半にかけて東海・中部地方で発達した椀形の無釉陶器。初期の製品には多数の器種が見られるが，12 世紀前半に椀と皿が主体となる。12 世紀後半から 13 世紀になると，底部の高台を失い，簡略化される。硬質で商品的価値が高かったのか，北陸・近畿・関東にまで販路が広がる。

③円面硯：円形の硯。硯は形態で円面硯・楕円硯・方形硯・風字硯・形象硯に分かれるが，円面硯の出土例が多い。朝鮮半島からの影響を受け，日本では 7 世紀以降に本格的に用いられるようになったと言われる。古代では識字層が官人や僧などの一部の層に限られていた。

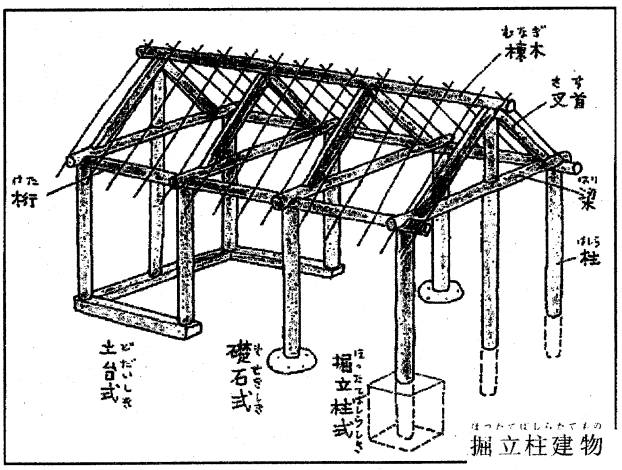
④黒色土器：土師器系統の土器で，器面をヘラミガキし，更に炭素を吸着させて黒変したもの。椀や皿などの食膳容器が多い。8 世紀後半～ 10 世紀前半頃のものは内面のみを黒色化した内黒焼成で，10 世紀中頃以降のものは器表面全体を漆黒色に仕上げた外観（両黒焼成）を示す。

⑤道路・駅制：路面や側溝として検出される。路面は踏み固めたり，叩き締めた土の硬化面，舗装面（砂利敷や礫敷）として確認される。通常は平坦だが，排水のために横断面を蒲鉾状とした例もある。側溝は素掘りのものが多く，雨水処理や道路幅確保のために設けられたと考えられている。直線状の官制幹線道路である駅路は，都と地方の国府等主要施設を結ぶ通信道路としての役割をもち，7 世紀後半から 8 世紀前半に多く建設されている。幅は 6 ～ 20 m と一定ではない。駅路を往来する駅使らに対し，駅馬の乗り継ぎ，食料の支給，宿泊所の提供などの便宜を与えるため，30 里（約 16km ごとに駅家が設置された。一般庶民には利用の許されない施設であった。駅制は奈良時代に最も整ったが，他の律令制度と同様，平安時代中期には崩壊していく。

【参考資料（出典　宮本長二郎「平城京　古代の都市計画と建築」)】を一部改編



竪穴住居



掘立柱建物

【写真資料】

写真１

調査地遠景

（北から）

※航空写真撮影。

写真２

調査地遠景

（真上から）

※航空写真撮影。

写真３

作業状況

（西から）

※柱穴を掘削。

※上の色を慎重に見分けながら，様々な道具を用いて作業を行っています。

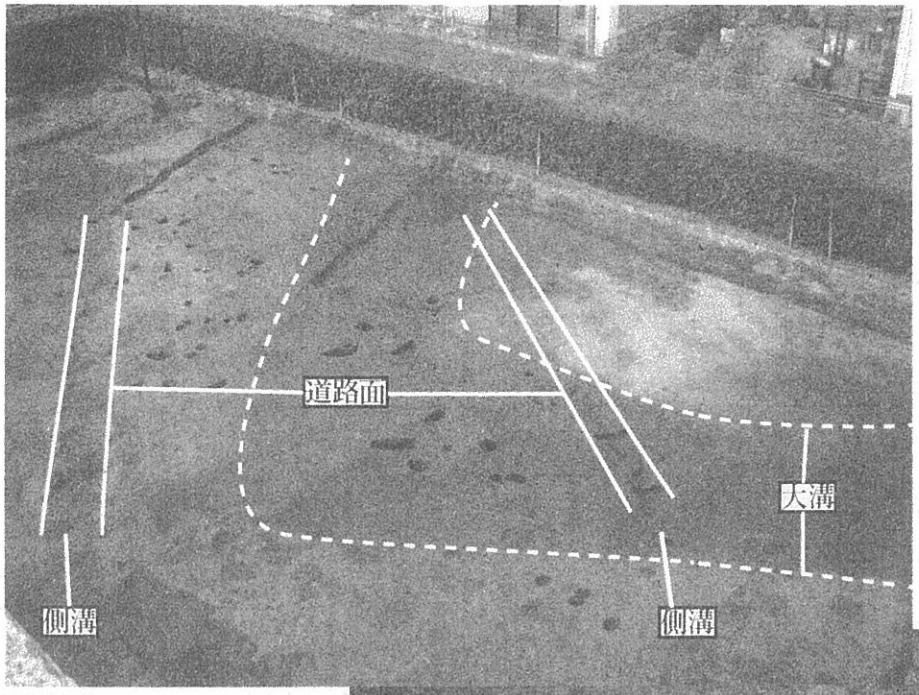
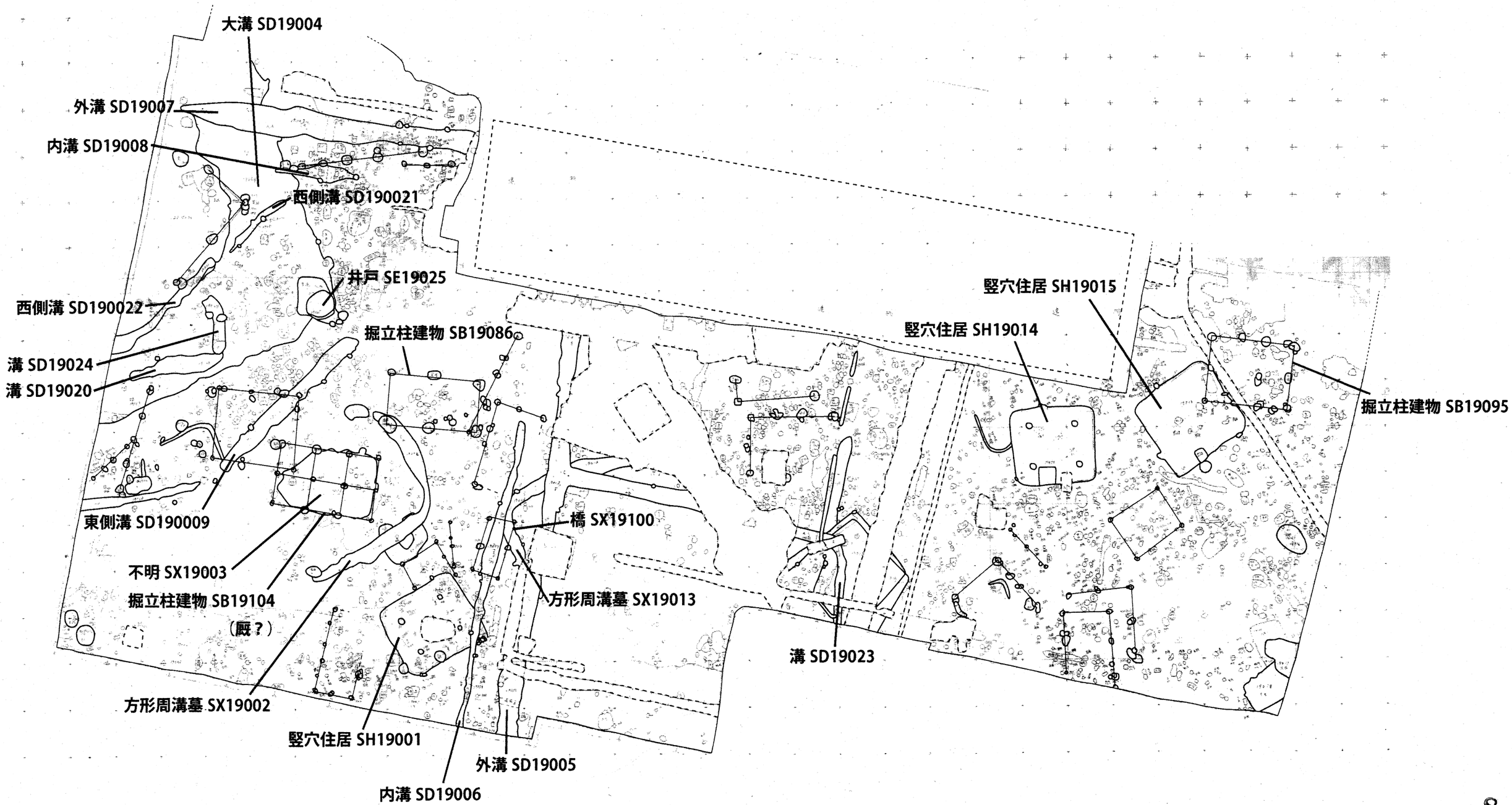
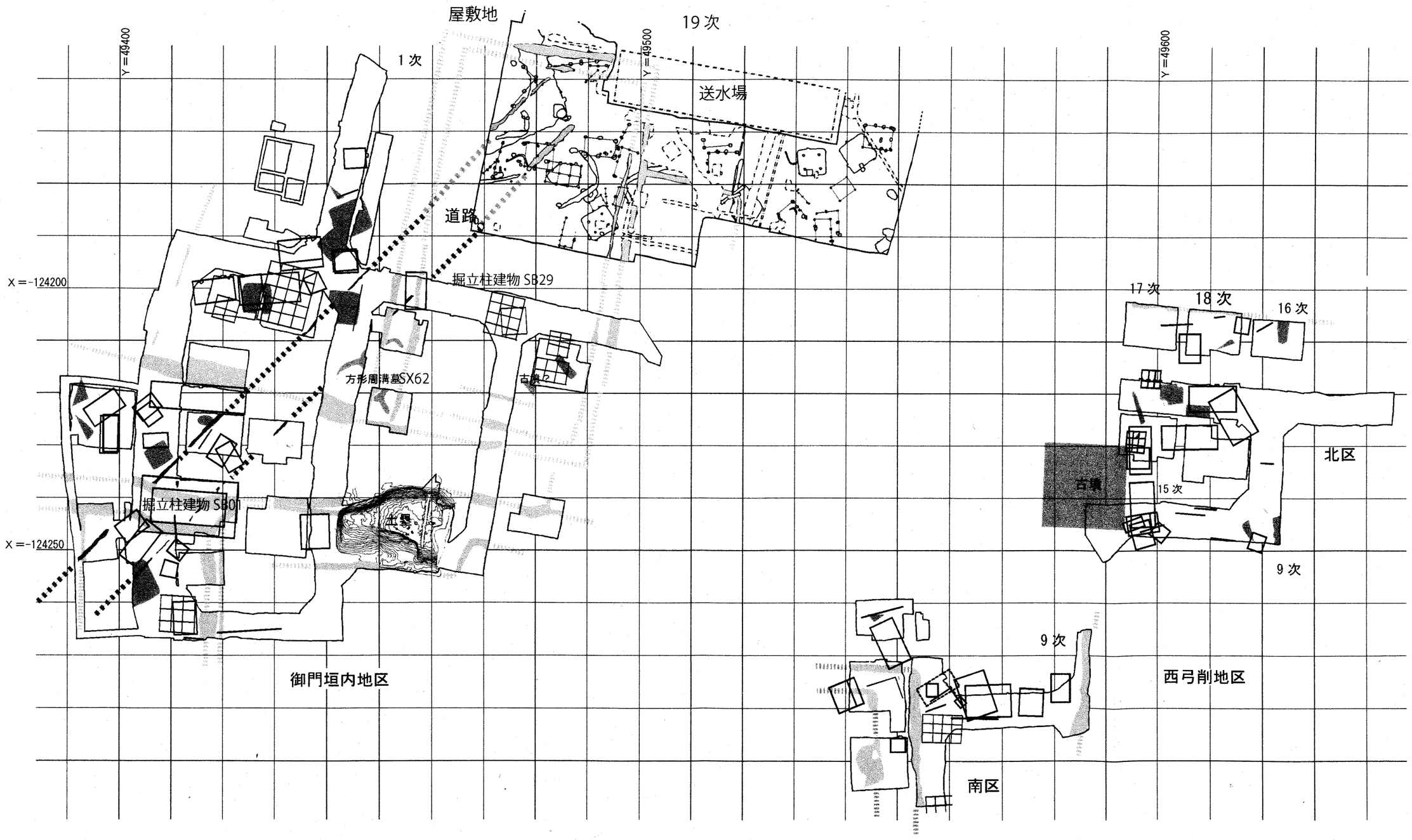


写真４
大溝検出状況
道路跡側溝完掘状況
（北東から）
※道路跡路面上に旧時代の大溝が位置。埋没には労力を要したことでしょう。
※道路跡の直進性の一端も窺われます。

写真５
土坑状不明遺構
遺物出土状況
（北東から）
※土師器甕と壺が並んで出土。体部上部のみ残存しており，意図的に打ち割って置かれたのでしょうか。

写真６
竪穴住居内土坑
遺物出土状況
（北から）
※土師器台付甕の台部が３点並んで出土。

平田遺跡第 19 次調査　主要遺構配置図　（S=1：250）



平田遺跡第１～19次調査　主要遺構配置図　（S=1：750）